

コード No. 10072

**Anti-Rat
GRO/CINC-1 (2A9) (N) Mouse IgG MoAb**

容量 : 500 µg

はじめに : GRO/CINC-1 (Growth Related Oncogene/cytokine-induced neutrophil chemo attractant 1)は元々、IL-1β 刺激されたラット腎臓の上皮細胞(NRK-52E)の培養上清から精製されました。ラット CINC-1 をコードするアミノ酸配列は 1989 年に富山医科薬科大学で渡辺らのグループによって同定されました。CINC-1 はケモカインのアルファ(CXC)サブファミリーに属し、それに加え 3 つのラット CXC ケモカイン(CINC-2α, CINC-2β, CINC-3/MIP-2)も同定されています。CINC-1 タンパク質の配列は 63-67%が CINC-2α, CINC-2β, CINC-3/MIP-2 と一致しています。また GROα, GROβ および GROγ では、CINC-1 とそれぞれ 68%, 71%, 69%の相同性があります。このことから、ラット CINC-1 がヒト GROs のカウンターパートであることが示唆されています。

免疫抗原 : Rat GRO/CINC-1 の N 端部分合成ペプチド (APVANELRC)

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ (腹水)
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 : 2A9 **サブクラス** : IgG1

精製方法 : Protein A による特異精製

包装形態 : PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 500 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 2~5 µg/mL にて使用可能
: 中和活性有り (100 µg/mL)

特異性 : Rat GRO/CINC-1 C 端部, Rat GRO/CINC-2α, Rat GRO/CINC-2β, Rat GRO/CINC-3, Mouse MIP-2, Human GROα, Human IL-8 と非交差

文献 : Yagihashi A, Tsuruma T, Tarumi K, Kameshima T, Yajima T, Yanai Y, Watanabe N., and Hirata K. Prevention of small intestinal ischemia-reperfusion injury in rat by anti-cytokine-induced neutrophil chemoattractant monoclonal antibody. J. Surg. Res. 78 (2): 92-96, 1998